

横浜市環境管理計画

2020年度の推進状況



1

横浜市環境管理計画について

- ・ 条例に基づく本市の環境分野の総合計画
- ・ 3つの基本政策、7つの基本施策を、市の総合計画である横浜市中期4か年計画、分野別の個別計画と連動させ、総合的に取組を推進

<環境管理計画の体系>



2

横浜市環境管理計画について

- ・計画の推進状況は、環境創造審議会にご報告し、ご意見を計画推進に活かすとともに、年次報告書として、毎年度とりまとめて公表

<年次報告書について>

位置付け

条例に基づき、横浜の環境の状況、環境管理計画に基づき実施された施策の状況等についてとりまとめ、公表

編集方針

市民・事業者に、分かりやすく環境の取り組みを伝える市の施策立案の基礎資料とする

【本編】横浜の環境の取組、環境の状況をデータを多用し総合的に記述

【概要版】より平易に、手にとってもらえるデザイン・内容

【資料編】計画に関係する経年データをオープンデータとして公開

配布方法

【本編】市ウェブページ、市民情報室、各市立図書館、各区広報相談係で閲覧

【概要版】本編と同じ場所で配布、視察・研修などで配布

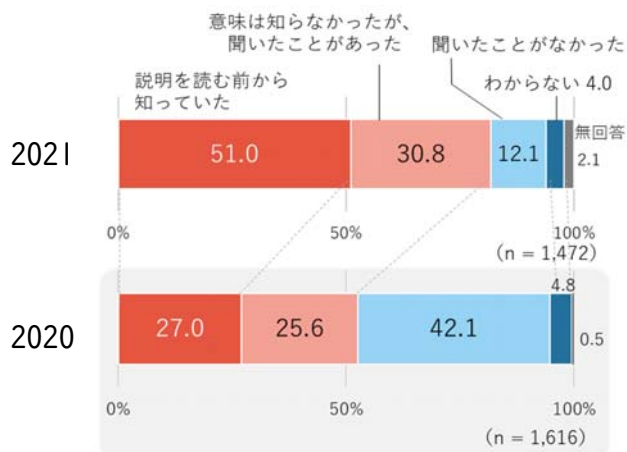
【資料編】市ウェブページでの閲覧・提供

3

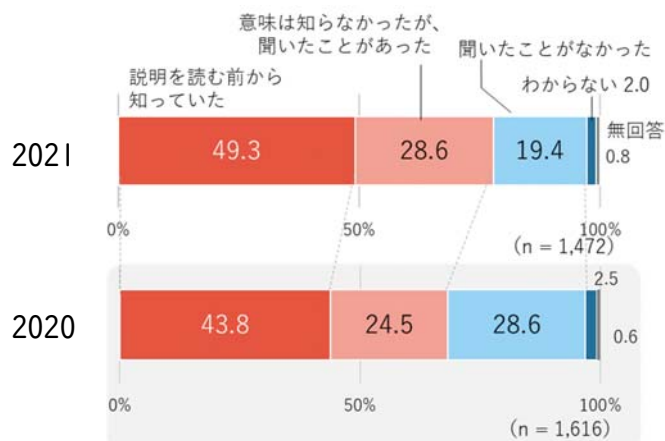
計画を取り巻く状況～市民意識調査から～

- ・環境分野では世界・国の動きが加速。市民・企業の環境意識・関心は高く、重点施策「地球温暖化対策」「生物多様性」について市民の認知度が大きく向上

<脱炭素化の認知度>



<生物多様性の認知度>



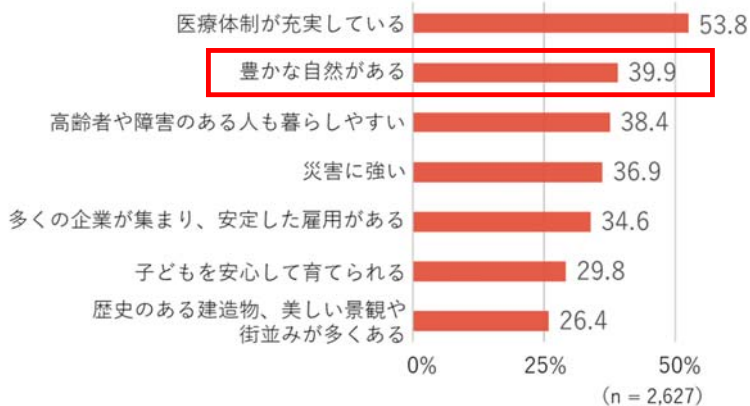
出典：2021年度 環境に関する市民意識調査結果
(調査時期：2021年7月)

4

計画を取り巻く状況～市民意識調査から～

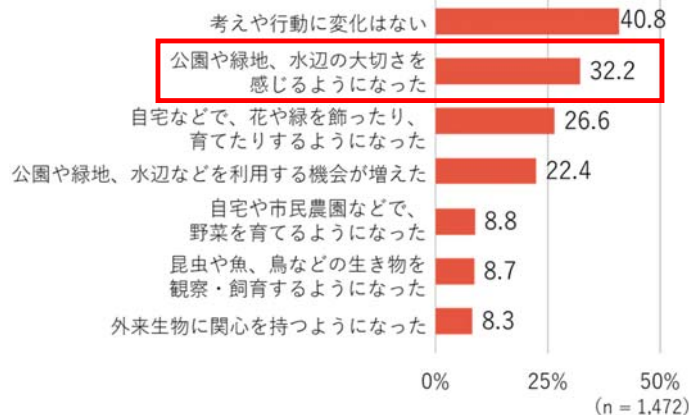
- ・今後の横浜のまちについて「豊かな自然がある」が第2位、ここ1年間で「公園や緑地、水辺の大切さを感じるようになった」市民は約3割と、身近な自然環境の重要性が認識されている

問 今後の横浜は、どのようなまちになるとよいと思いますか。（優先したいものを5つ選択）



出典：令和2年度 市民意識調査結果
(調査時期：2020年10月)

問 ここ1年間で、身近な自然環境に関する考えや行動に変化はありましたか。（複数選択）

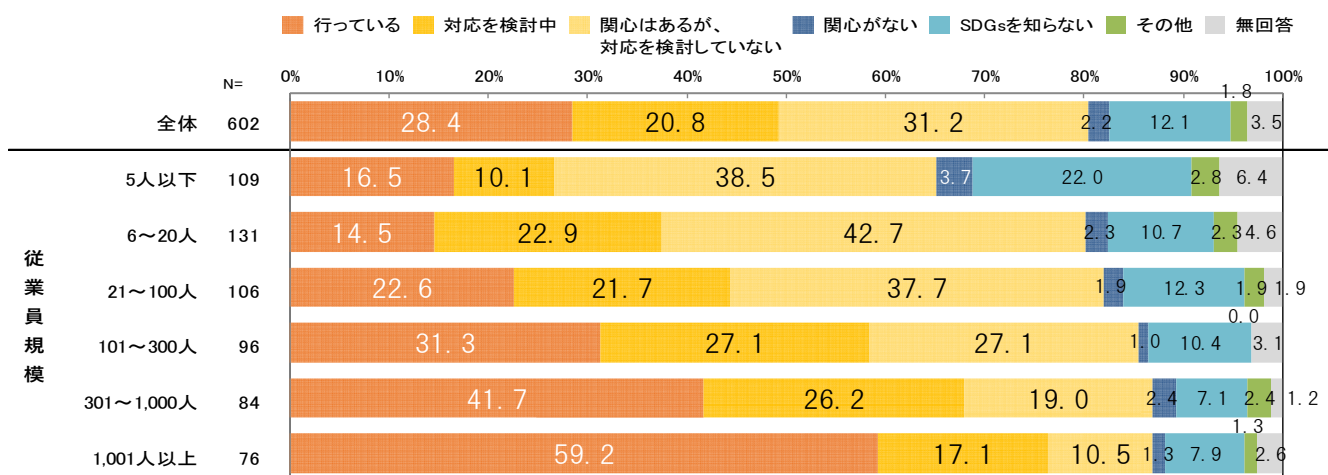


出典：2021年度環境に関する市民意識調査結果
(調査時期：2021年7月)

計画を取り巻く状況～環境に関する企業意識調査から～

- ・企業でもSDGsへの関心・取組が広がり、小～中規模の取組の広がりにも期待がもてる状況。一方、「関心がない」「知らない」とする層への働きかけも必要

問 SDGsへの貢献の視点を持った経営、事業活動を行っていますか。（1つ選択）



出典 2021年度 環境に関する企業意識調査結果 (実施時期2021年8月)

各政策・施策の推進状況

7

基本政策 | 環境と人・地域社会 環境にやさしいライフスタイルの実践や地域の環境活動を支援

本編 p14

- 愛護会などの市民団体・学校・事業者による、良好な環境の保全活動を支援
- 地域で積極的に環境保全の取組を行う事業者・団体を表彰
- 多くの市民の環境にやさしいライフスタイルの実践につなげるための広報や、SNSによる情報発信を推進
- 18区役所では、地域特性を踏まえた取組を展開



森づくり活動の様子
(上矢部ふれあいの樹林)



横浜環境活動賞受賞団体による
植物調査の風景



地域と協働によるSNS発信（青葉区）

8

- 再エネの普及、燃料電池自動車の普及といった地球温暖化対策の推進
- 地域資源や景観を活かし横浜の魅力を発信、賑わいを創出
- 新興国等の環境課題解決に向けた国際技術協力・海外インフラビジネス展開支援
- 市内産農畜産物の地産地消に取り組む事業者を支援



事業者向け再エネ切替キャンペーン
2020年度チラシ（9都県市連携）



里山ガーデン・横浜の花で彩る大花壇
(旭区)

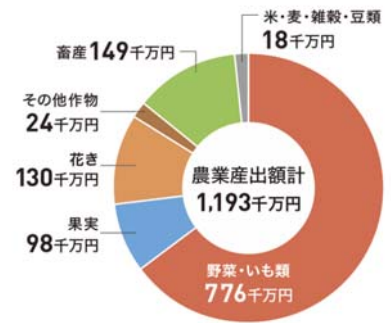


図 横浜市の農業産出額

- 都心臨海部では公共交通の利便性向上等、エネルギー・交通面から環境負荷低減
- 郊外部での持続可能な魅力あるまちづくり、土地利用転換に対応した公園整備
- 神奈川東部方面線など交通ネットワーク整備、自転車利用環境の整備の推進
- CASBEE横浜（横浜市建築物環境配慮制度）等により環境配慮型建築物の普及促進
- 雨水幹線等の整備や内水ハザードマップの改定等、大雨への備えを強化



国際園芸博覧会 会場イメージ
(2027年開催予定)

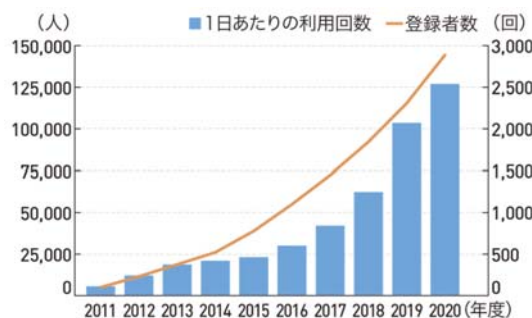


図 コミュニティサイクル登録者数の推移



内水ハザードマップ改定版
(西区)

- 温室効果ガス排出量、エネルギー消費量ともに減少
- 東北13市町村との連携、PPA事業の着手など、再生可能エネルギー活用が進展
- 水素ステーション整備費補助・FCV導入補助を推進

環境目標の達成状況

温室効果ガス排出量
エネルギー消費量

()内は前年度値

1,772 (1,818) 万t-CO₂
221 (225) PJ

2013年度比 18%減
2013年度比 13%減



秋田県八峰町から再エネ電力を受給
(コマダ珈琲横浜江田店)



左上: 新たな水素ステーション
(戸塚区)
右下: 燃料電池自動車 (FCV)

図 横浜市域の温室効果ガス排出量の状況と削減目標

- 多様な動植物などの生き物の生息・生育環境の保全を推進
- 市民が身近な自然や生き物に触れ合い、楽しみ、学ぶ機会を創出
- 生物多様性に配慮した行動をとる市民や企業等を増やすための表彰・情報発信

環境目標の達成状況

水田保全面積

動物園等における環境教育・学習の実施

生物多様性保全に取り組む市民団体や企業への表彰

()内は前年度値

113.3 (113.5) ha

120※ (843) 件

15 (19) 団体

※コロナ禍における行動制限により開催件数が大きく減少



良好に保全された農景観 (舞岡ふるさと村)



学びのきっかけづくり
(よこはま動物園ズーラシア)



Twitterを活用した
身近な生き物情報発信

環境目標の達成状況	()内は前年度値
緑被率 (2019年度調査値)	27.8 %
緑地保全制度による新規指定	28.9 (47.2) ha
宅地内雨水貯留タンク設置助成	199 (108) 件
道路・宅地への雨水浸透ます設置 (下水道事業で設置したもの)	19,342 (19,078) 個 (2020年度末時点)



寺家町居谷戸特別緑地保全地区 (青葉区)

基本施策4 都市農業

環境目標の達成状況	()内は前年度値
市民・企業等と連携した地産地消の推進	45 (41) 件
市内産農畜産物の購入機会の拡大	41 (43) 件
農業者団体※による維持管理面積 ※まとまりのある農地を維持する農業者団体	643.9 (641.7) ha (2020年度末時点)
様々な市民ニーズに合わせた農園面積	88.9 (85.0) ha (2020年度末時点)



市内産農畜産物販売 (市庁舎内)

13

基本施策5 資源循環

環境目標の達成状況	()内は前年度値
ごみと資源の総量	120.0 (122.1) 万t
ごみ処理に伴う温室効果ガス排出量	25.0 (26.0) 万t-CO ₂
産業廃棄物最終処分量	17 (45) 万t (2019年度)



図 ごみと資源の総量及び人口の推移

基本施策6 生活環境

環境目標の達成状況	○/○は達成地点数/調査地点数
大気	二酸化窒素 24/26※ 光化学オキシダント 0/18
水質 (河川)	BOD 20/21 生物指標 35/38 (2018-2019年度調査)
(海域)	COD 4/7 、 全窒素 6/7 、 全りん 5/7

※環境基準の下限値 (1時間値の日平均値0.04ppm) で評価。上限値には全地点で達成

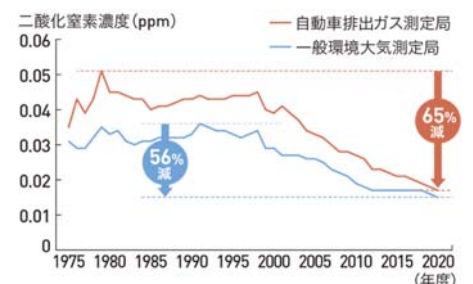


図 大気環境 (二酸化窒素濃度) の経年変化

14

- 「環境に関心があり、行動している」市民の割合は8割超
- オンラインも活用し、環境教育出前講座などの環境を学ぶ場を創出
- 教育機関において、SDGs達成の担い手育成（ESD）を推進

環境目標の達成状況

環境に関心があり、行動している市民
 環境教育出前講座参加者数
 ESDに積極的に取り組む市立小中学校数

()内は前年度値
 81.5 (84.9) %
 3,776※ (8,409) 人
 392 (332) 校

※コロナ禍における行動制限により参加者が大きく減少

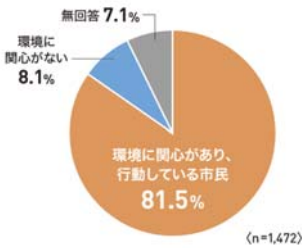


図 環境に関心があり、行動している市民の割合
 （出典）2021年環境に関する市民意識調査



オンラインでの環境教育出前講座



SDGs達成の担い手育成（ESD）
 推進校と地域との取組